

平成 26 年度 第 2 回神戸市体罰を許さない学校づくり検討委員会要旨

1 日 時 平成 26 年 11 月 20 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00

2 場 所 総合教育センター 701 号室

- 3 次 第 (1) 指導部長あいさつ
(2) 委員長あいさつ
(3) 協議①「体罰防止リーフレットについて」
(4) スポーツ指導の現場より
(5) 協議②「体罰根絶に向けた取組について」
(6) 社会教育部長あいさつ

4 主な発言内容

<協議①体罰防止リーフレットについて>

- ・各学校では、9月に発行した体罰防止リーフレットを使って全教職員に研修を行い、体罰の禁止を周知している。
- ・このリーフレットは、細かな資料をたくさん出すよりも印象が強く、分かりやすく使いやすい。
- ・アンガーマネジメントを意識し、自分の気持ちをコントロールしようとする教職員が増えている。
- ・アンガーマネジメントは教職員だけでなく子供たちにも活用の仕方を朝会で紹介した。
- ・子供に対し、頑張っているところは評価し、叱るべきところはしっかりと叱るなど、教職員が指導について再確認する良い機会となった。

<スポーツ指導の現場より>

*神戸親和女子大学 加藤 寛教授

- ・スポーツの教育的価値…目標に向かって、創意工夫し、自己管理できるようになる。
- ・コーチング…選手に発問し、選手が自ら立てた目標に到達できるよう助言する。選手が自発的な行動を引き出せるようサポートするコミュニケーションスキル
- ・上手なアドバイスの仕方、誉め方、叱り方
- ・積極的傾聴

<協議②体罰根絶に向けた取組について>

- ・体罰に関する報告が減少しており、教職員の指導のあり方の見直しが一層進んだものと思われる。
- ・生徒会が自分たちの生活マナーについてのアンケートを実施した。生徒の言葉遣いに課題があるという結果を受け、教職員も自分たちの言葉遣いについて振り返る機会とした。
- ・体罰のことについて、PTA と生徒と教員の三者が集まって話し合う機会を設け、PTA 総会で発信した。
- ・教職員は、児童生徒の発達段階に合わせた指導をするべきである。なぜ、そういう行動が起きるのか、児童生徒を理解し、いろいろな手立てがとれるような研修をしていかなければならない。
- ・部活動の外部指導員にも体罰について研修をしている。
- ・コーチングというのは、相手に発問し、自分が立てた目標に到達できるように助言、サポートするコミュニケーションスキルであり、最近では、ビジネス界でも研修が行われている。コーチングの手法は、自ら考える力を身に付けさせることができ、部活や学習指導にも利用できる。
- ・体罰の根絶に向けては、「教育はどうあるべきか」、「スポーツはどうあるべきか」など、「子供たちをどう育てていくのか」という大きな課題が根底にある。そこを共通理解していくことが大切である。

<来年度の方向性について>

- すぐれた指導の哲学や体罰を生まない指導について、若い教員や経験の少ない教員が学ぶ機会を作っていたきたい。
- 子供の叱り方などを保護者だけでなく、例えば自治会や青少年協議会の研修会などで広めていけば、良い街になっていくと思う。
- 親としては、家庭で常識を教えるので、学校では良識を教えてほしい。
- 今後も体罰に至らないための様々な指導法の研修を継続していかなければならない。
- 来年度は、2回程度検討委員会を開催し、検討委員会が主催する研修会等の企画など、体罰根絶に向けて全市に継続して発信していく必要がある。